

## 21. 《元寇後も日中交易は継続した》

韓国沖で、沈没船が発見され（注1）、積荷の分析などから、歴史の一断面が明らかになりました。その船は、1323年、中国の寧波（ねいは：注2）を出航し、博多へ向かった船でした。26トンもの宋銭など錢貨が積まれていたことも驚かせました。

実は、1252年（建長4）に鋳造された鎌倉大仏（注3）も、金属成分を分析すると、国内産出の金属（銅など）ではなく、宋銭を溶融したものと考えられています。

このように、福原（注4）に港を築造するほど貿易に熱心だった平氏が滅んでも、中国との交易が行われ、元寇以降においても継続されていました。そのときの日本の交易の窓口は博多でした。

日本の資料によると、寺社の修復や再建のための財源確保として、鎌倉幕府認可の元、造営料唐船が、たびたび出されています。武藏国にある称名寺（注5）も、1306年（嘉元4）に「造営料唐船」を出した記録が残されています。

なお、この時代に中国から伝來した茶は、武藏国の川越にも植栽され、狭山茶として特産品となったものです。

注1：1975年、韓国西南部の全羅南道新安郡の沖で沈没船が発見されました。船の長さ約30m、幅約9mの船ですが、発見場所を冠して新安沈没船と呼ばれています。

注2：中華人民共和国浙江省にある日中交易の拠点港。

注3：鎌倉市長谷にある浄土宗の高徳院の本尊。鋳造の金属平均含有比率は、銅68.7%、鉛19.6%、錫9.3%。この比率から宋の中国銭が使用されたと推定されています。

注4：現在の神戸市

注5：称名寺は、1258年（正嘉2）に創建され、浄土を再現するべく、遂次増築されていきました。鎌倉時代の図書館である金沢文庫を管理した寺です。運慶作の仏像も現存します（光明院に）。京急本線の金沢文庫駅から徒歩7分のところにあります。

写真は、①鎌倉大仏（細見撮影、②称名寺（浄土式庭園の池から、丸橋とその先の本堂を望

んだ。細見撮影)

①



②

